

高齢者の動き

- 高齢者の発生集中量は大きく増加
- 高齢者の自動車の利用割合が増加

高齢者（65歳以上）の発生集中量は、平成2年から平成12年の10年間で87%の増加と、人口の増加割合である38%を大きく上回っています。（図19、20）

高齢者の発生集中量の目的構成をみると、自由目的が大半を占めており、その割合も年々増加しています。（図21）

高齢者の発生集中量の手段構成をみると、昭和55年においては徒歩の割合が約5割、自動車の利用割合が約1割であったのに対して、平成12年では徒歩の割合が4割未満へと減少し、自動車の利用割合が2割以上へと増加しています。

このことから、高齢者の間にも自動車利用が進んでいることが伺えます。この背景の一つとして、高齢者の免許保有の進展（図23参照）が考えられます。（図22）

高齢者の免許保有率は、男女とも増加傾向にあります。特に男性においてはほぼ半数の人が免許を保有しています。この背景の一つとして、免許保有率の高かった世代が、高齢者の仲間入りをしていることなどが挙げられます。（図23）

図19 京都市における高齢者の発生集中量の推移（昭和55年～平成12年）

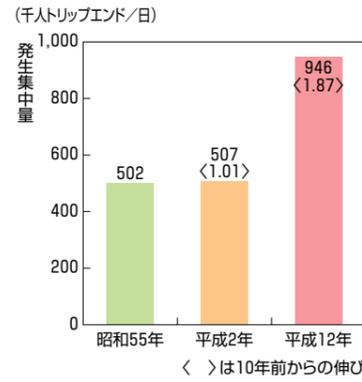


図20 京都市における高齢者の夜間人口の推移（昭和55年～平成12年）

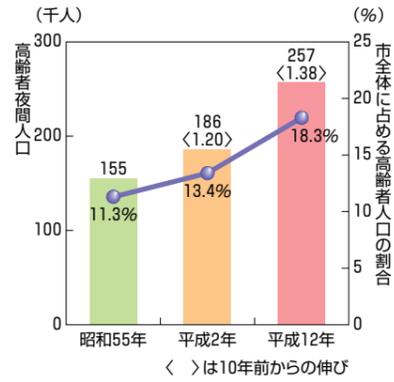


図21 京都市における高齢者の発生集中量の目的構成の推移（昭和55年～平成12年）

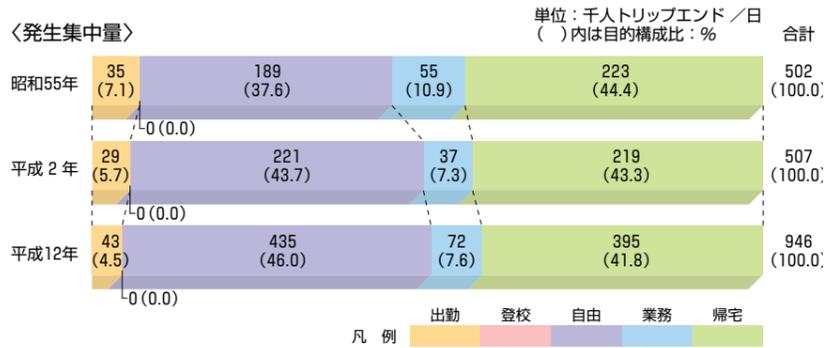


図22 京都市における高齢者の発生集中量の手段構成の推移（昭和55年～平成12年）

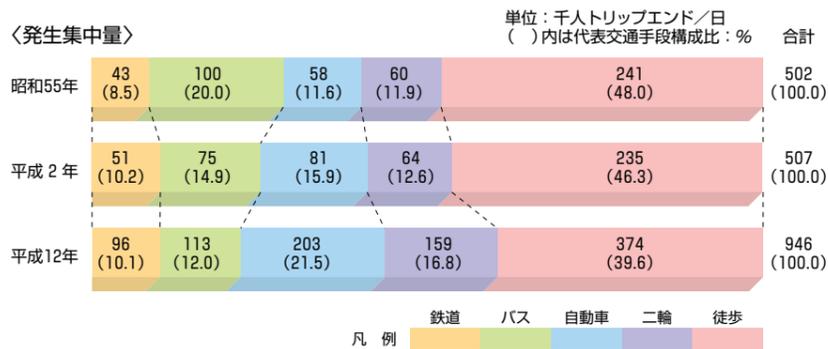


図23 京都市における高齢者の免許保有率の推移（昭和55年～平成12年）

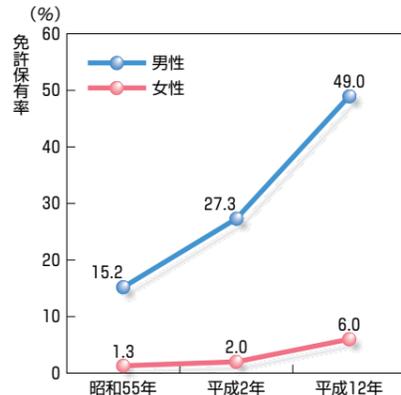


図24 京都市における女性の発生集中量の目的構成の推移（昭和55年～平成12年）

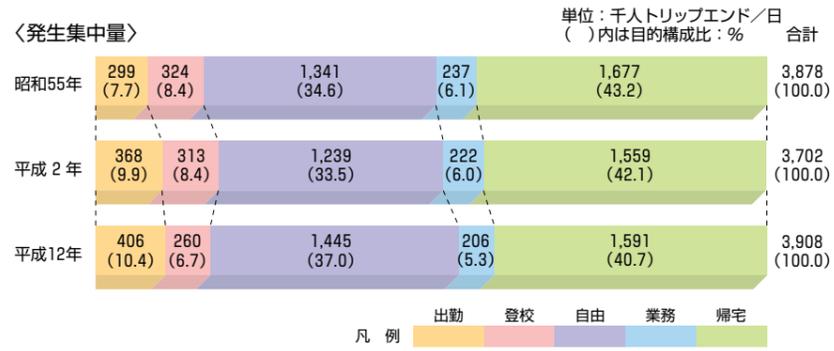


図25 京都市における就業・非就業による女性の生成原単位の比較（平成12年）

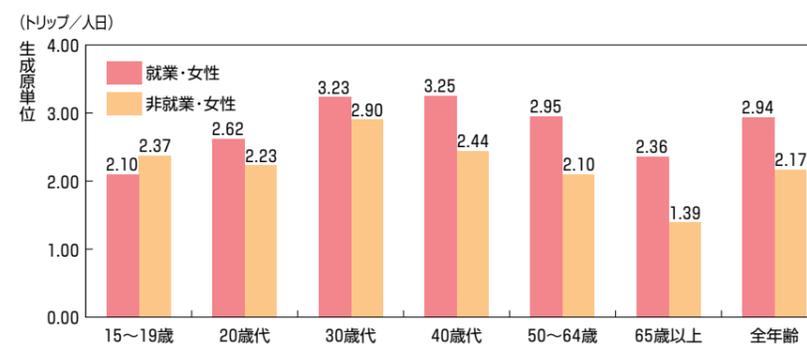


図26 京都市における女性の発生集中量の手段構成の推移（昭和55年～平成12年）

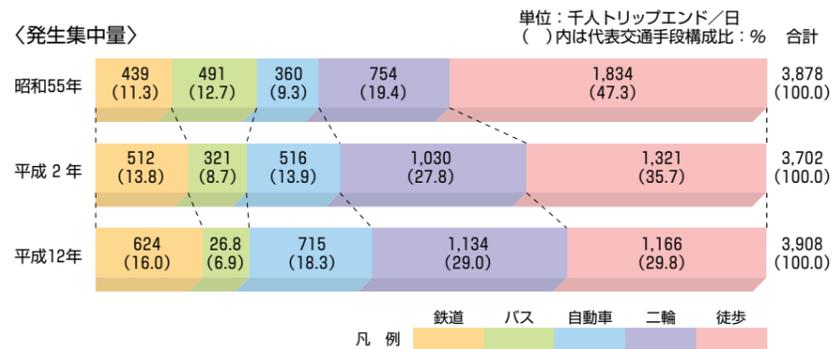
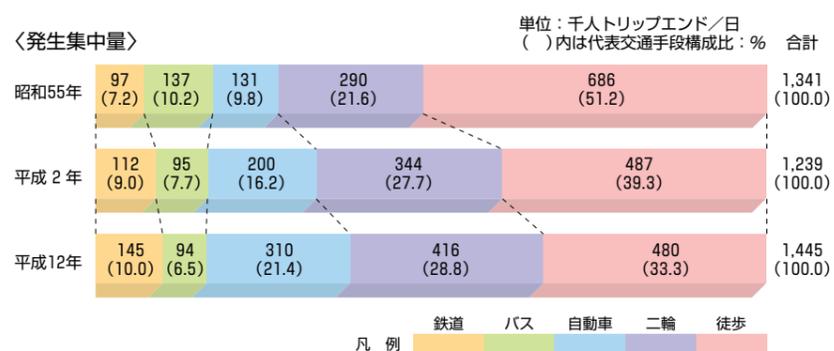


図27 京都市における自由目的での女性の発生集中量の手段構成の推移（昭和55年～平成12年）



女性の動き

- 女性の自由目的の割合が増加
- 女性の自動車の利用割合が増加

女性の発生集中量における目的構成をみると、平成2年から平成12年の10年間で自由目的の割合が約4%増加しています。（図24）

就業している女性と非就業の女性について生成原単位を比較すると、20歳代以上においては、**就業している方の生成原単位が高くなっています。**

20歳代以上における就業・非就業による生成原単位の差についてみると、年齢が高くなるにつれてトリップ数の差が大きくなっていることがわかります。（図25）

女性の発生集中量の手段構成をみると、昭和55年においては徒歩の割合が約5割、自動車の利用割合が1割未満であったのに対して、平成12年では**徒歩の割合は約3割に減少している一方で、自動車の利用割合が約2割へと増加しています。**

このことから、女性の間にも自動車利用が進んでいることが伺えます。この背景の一つとして、女性の免許保有の進展（図12参照）が考えられます。（図26）

図24の京都市における女性の発生集中量の目的構成の推移のうち、大きく増加している自由目的の発生集中量における手段構成についてみると、昭和55年では徒歩が5割以上、自動車の利用割合が1割未満であったのに対して、平成12年では徒歩の割合が約3割に減少し、**自動車の利用割合が2割以上に増加しています。**

このことから、特に自由目的において女性の自動車利用が進んでいることがわかります。（図27）